

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年10月11日（金）

2 確認箇所

- ・構内全般（T. P. 8.5m盤、T. P. 33.5m盤）
- ・既設多核種除去設備

3 確認項目

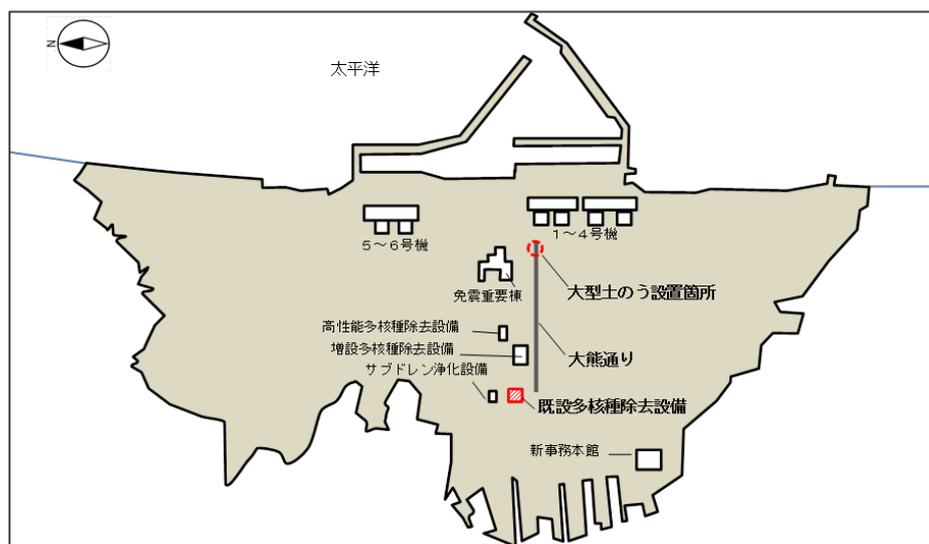
- （1）台風19号接近前の準備状況
- （2）既設多核種除去設備（A）移送ポンプ出口弁からの漏えい

4 確認結果の概要

（1）台風19号接近前の準備状況について

台風19号が接近していたことから、構内を巡視しながら大雨や強風に対する準備状況を確認した。

- ・1～3号機原子炉建屋周囲のクローラークレーン等は、強風対策として、ブームを地上に伏せる措置が講じられていた。（写真1）
- ・東京電力では、緊急的な豪雨リスク対策として、300～500mm程度の降雨が予想される場合には、地形的に雨水が集まると想定される大熊通り下端（図1）に大型土のうを設置し、1～4号機建屋方向への表流水の流入を抑制することにしており、午後から大型土のうの設置作業が開始された。（写真2）
- ・屋外に仮置きされている資機材は、ロープで固縛する措置が講じられていた。（写真3）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
クローラクレーンの強風対策の
例①（2号機原子炉建屋南側の
600 t クレーン）



(写真1-2)
クローラクレーンの強風対策の
例②（3号機タービン建屋東側の
150 t クレーン）



(写真2-1)
大熊通り下端にあらかじめ仮置きさ
れていた大型土のう



(写真2-2)
大型土のう設置作業の状況

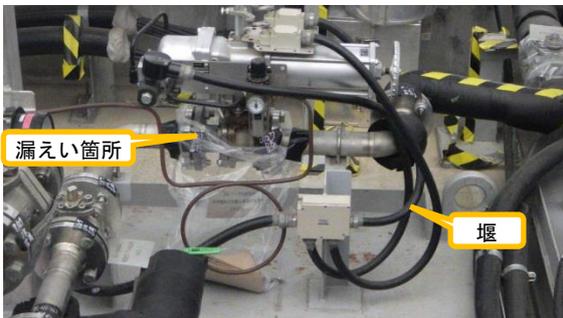


(写真3)
資機材のロープ固縛の例(1号機原子炉建屋西側)

(2) 既設多核種除去設備(A)移送ポンプ出口弁からの漏えい

昨日(10月10日)、既設多核種除去設備(A)移送ポンプ出口弁からの水の漏えいを現場パトロール中の協力企業作業員が発見したことから、現場状況を確認した。(図1)

- ・漏えい箇所は堰内であり、現場確認時、漏えいは停止していた。また、紙タオル及びビニール袋による養生が行われていた。(写真4)
- ・東京電力によると、漏えい範囲は約10cm×15cm×深さ1mmで、当該弁の補修により10月10日11時39分頃に水の漏えいが停止したとのことであり、この漏えいによる外部への影響はなく、今後、当該弁の分解点検を実施し、対策を講ずるとのことであった。



(写真4-1)



(写真4-2)
漏えい箇所拡大写真
(点線部が漏えい箇所)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。